Y-GSA

Ai Fukudome × Koki Ikeya × Yushi Kume

池谷　浩樹　｜1996 年

静岡県伊東市池生まれ、TrussHouse 代表。2017 年度横浜国立大学卒業設計吉原賞受賞。写真は、卒計提出 1 週間前の様子。

久米　雄志　｜1993 年

東京都八王子市出身、MC Architects 代表。2018 年度 JIA 卒業設計コンクール 2018 年度円錐会賞受賞、2018 年度 JIA 全国卒業設計コンクールファイナリスト。写真は大久野島のうさぎと本人。

福留　愛　｜1995 年

鹿児島県出身、iii architects 共同主宰。第 15 回タイワハウスコンペティション優秀賞＋大和ハウス工業賞、都市のパブリックスペースデザインコンペ 2018 優秀賞、長谷工住まいのデザインコンペティション 2018 優秀賞受賞。写真はスペインバルセロナでの一枚。

with Eiji Mouri × Taichi Hayashi × Yukino Fujii

いつもお世話になっている先輩方に、公開審査会では聞けなかった身近な意見や、普段考えている建築のことなど、改めていろいろなお話を伺いました！

Y-GSA : 横浜国立大学大学院 / 建築都市スクール。2007 年創設。スタジオ制の教育方式を採用しており、現在は妹島和世スタジオ、西沢立衛スタジオ、乾久美子スタジオ、藤原徹平スタジオ、大西麻貴スタジオでの 5 つで構成されている。

まずは今回の卒業設計の、全体的な印象から、お願いします。（藤井）

池谷　それはね、雄志が話してくれると思う（笑）。

久米　（笑）　全体の印象は、この学年らしいかな。建築以外に興味のある人が多くて、ファッションとか音楽とか、いろんな方向に対しての興味が卒業設計を通して見て取れる、凄いなって思います。あとは模型と図面と内容のバランスがよかった印象がある。スケールの切り取り方が例年に比べるとクレバー、スマートなプレゼンテーションだった。

池谷　それ俺も言おうと思ってた・・・クレバーって単語を用意してたのに（笑）梗概がちゃんとしているみたいな話もあったけど、提案としてもクレバーさがあったかなと思います。雄志とも話したけど、その分バカっぽいのはなかったね。バカだからいいということではないけど（笑）

「ずば抜けたものは無かったよね」という話が他のインタビューでもあって。（藤井）

福留　確かに。

久米　意外と、根が真面目（笑）なんか変なとこ真面目になるなっていう。あと、めちゃくちゃ横国っぽいものに戻った。それは多分 1 万平米で北山さんの教育を受けてるからだと思うんだけど。

池谷　確かに、劇場課題の時と印象が違う。

久米　例えば、模型表現がどれも似たような材料でできていて抽象的というか、構成や形式を大事にするっていうのが北山さんの教育を受けた影響なのかな。

去年は横国らしくなかったですか？（藤井）

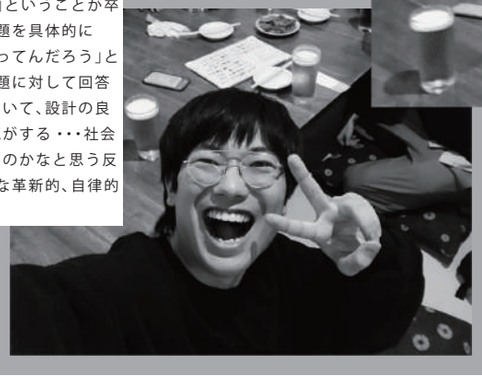
池谷　去年はプログラムが結構バラバラなのは良かったとは思うけど、「何故こういうことするのか」みたいなのがわからないところがあった気がする。

久米　今回は全体を通して理解できるものが多かった。例えばバス亭の提案は、結構共感するところが多かった。バス停がもっと小さな単位で住宅街に発生していくと違ったものになるという。

そうですね、まずバス停を増やして、それが住宅と一緒になって、各住居に合わせたプロトタイプみたいなものができる。（毛利）

池谷　住宅と合わせるのは面白いね、ハイパーミックスの住宅版みたいな。横国の作品って、ただ作品として外で戦えるというようなものでもないと思うんだけど。例えばパース一枚で決まらない作品が多い。（提案が）ぱっと見のオブジェクトとしてかっこいいという感じのものではない。僕はそれが横国の良さだと思う。

まず社会に対して何を問題視するかということ、そこから設計することにまで、一年間ではなかなか行きつかない――。（藤井）



福留　「社会的問題に対して建築的に回答する」ということが卒業設計の一つの目的だと思うんだけど、その問題を具体的に絞っていけなかった人たちが、最後「これ何やってんだろう」という感じのまま点数つけられる（笑）大きな問題に対して回答するときにまだ抽象的な思考のまま物になっていて、設計の良し悪しを判断しづらいというのがあるような気がする・・・社会的な問題を捉えることの上手さが横国の良さなのかなと思う反面、図面や模型をみるだけで胸を打たれるような革新的、自律的な建築があまり生まれにくい感じがする。

何か「建築はこうあるべき」っていうのはありますか？（藤井）

久米　僕もそこは悩んでますよ、断言するのは難しいけど何か飲みます？とりあえず

レモンサワーハイボールフグの唐揚げ鯖の酒粕焼き
これならしていいですか？チリンッ

池谷　建築自体は明治維新に入ってきたわけじゃん、どうやって ''Architecture'' を「建築」って訳したんだっけ。
久米　ただの建物ではないし、でも構築することだけにはとどまらない、アーキテクチャーってそもそも概念だよね。概念としての構造は、建物とはまた違う。建築は、思考の骨組みがなきゃ建築として成立しない。
福留　これはあまり関係ないかもしれないけど、先日髙橋(一平) さんに、「私たちがやっていることって、すごく暴力的なんじゃないか」という疑問を話してみました。例えば施主の要望を踏まえた丁寧なリノベーションは、私の家族や建築について知らない人に話すと「いい」ってみんなが思う価値観です。けれど、これはすごいって涙が出るぐらいの建築は、そういう事からは生まれないんじゃないかっていう不安があります。「建築家が建築することで、誰かを不幸にさせるんじゃないか」という純粋な質問をそのときしました。その時に髙橋さんは、「私たちがやっている事は生きがい、知性を持ってやってる。建築の歴史の中に自分がいるという事から建築をしていて、それとはまた違う。」と。知性を生きがいにするかどうか、それで確かに自分をそこに位置付けるかどうかの選択もあるんだなって腑に落ちました。
池谷　高橋さんとか西沢さんは、建築史のページの中で考えてる。それはグローバルの影響っていうか、人類史の中で考えてるっていうか。
福留　何に対して覚悟しているかというのが人によって違う。私たちの少し上の世代の建築家は、どちらかというと暴力的でない、もっと協調的なものを目指す作品が多い気がするんだけれど、それもそういう覚悟があるのかなっていう。だからどっちの気持ちもよくわかって、どっちを選ぶかは自分の価値観次第。
池谷　愛ちゃんは結局、どっちか選んだの？
福留　私は暴力的なものに興味があります。何故自分がこっちを選んでるかっていう理由が知性とか生きがいしかないんだなっていう感じはした。だから人を幸せにするみたいなモチベーションというよりは、もう自分がその建築を凄く面白がってやってるという感じ。
池谷　文化活動としてはそちらに触れてきているとは思う、個人が好きなことをやってるみたいな。確かテンプラスワンでも、ちょっと前に流行ったまちづくりは何かダサくて、むしろ個人個人が好き勝手やっているのが結合していく流れが最近多い（というのを書いている）。でも、建築って結局一人じゃできないよねっていう（笑）
久米　そう、だからいかに個人が世界と接続しているかどうかっていう話になるんじゃないかな。「私の問題は世界の問題になっているかどうか」っていうのが建築家においては絶対に必要な気がする。

池谷　さっきの・・・建築はどうあるべきか、だっけ？
久米　僕はずっと時間と建築に興味があるんだけど、それをどう実現したらいいかよくわからない・・・。修士論文で書こうと思っているのは、竣工至上主義批判。それは東大の加藤耕一さんという人が言ってるみたいに、竣工した状態が至上であるという考え方が現代の建築家に蔓延していると思っていて、それはだから人がいない状態、それって近代建築から入ってきた事で。一方で多木浩二の『生きられた家』にも書いてあるような、動き続けている状態、出来事のある建築っていうのに惹かれる部分がある。「竣工した状態が建築」っていうのは建築が自由じゃない、建築が人のためではなく建築のためにあるっていう。建築はもっとアナーキーな状態であるべきだという考えを持ってる。
池谷　それはさ、建築の問題なのかメディアの問題なのかというのもあるよね。『生きられた家』が面白いとは建築家の大半が思ってる事だと思うんだよ。
久米　多分そこでぶち当たる問題は、建築家はどこまでコントロールすべきかという事。それをどうやって建築家がデザインするかっていうところで僕が今興味持ってるのは、状況主義、シチュアシオニスト。あの年代の話。
福留　あの年代は難しいよね、ものになりづらいイメージがあります。

池谷　藤原さんとか北山さんだろうね。
久米　ものとしてかっこいいって思えるかというとわからないけど、やってることはすごいかっこいい。一個可能性を感じるとしたら、骨組み。

久米　愛ちゃんは？
福留　私は、建築の発想みたいなところに一番興味があって、その建築が今までの自分の価値観を揺さぶるような建築かどうかというのが重要だと今は思ってる。それっていうのが、旅行した時とかに現地の人が、インドだったら自分で洗濯しながら自分の体も洗うとかその辺の冷たいタイルがあるから寝てるとか、道端でご飯食べること、半屋外で食べること、お風呂が外にあったりすること、生活ってこういう風にもできるんだってハッとさせられるような風景を見た瞬間に、自分が作る建築もそうであってほしいなって思う。そういう野生的な豊かさって不便さと共存していて、日本だと日常的にはそういう豊かさには気づかない、ただ不便でしかないっていう。それこそリテラシーの問題。ー家族とかに話したら絶対屋根で繋がってて欲しいとか、一回外に出てお風呂に入るなんてありえないとか、便利であることが最優先。みんなの普通の価値観があるんだけど、それをぶち壊すような建築が作れたらいいなと思う。個人の価値観によって全然違うから凄いリスキーだけど、そういう個人の価値観が集積できる場所こそが都市。それがどういう風に可能なのかっていうのは、これからの自分の建築における課題。
例えば髙橋さんの『casa o』とかは、玄関っていうのはリビングと一緒でいいんだとハッとした。価値観が交わる公共建築ではどういうことが可能なのかっていうのは考えたい。
久米　建築というビルディングタイプを崩すことが価値の転換につながるっていう、高橋さんがそれをやろうとしているのはわかる。
池谷　ビルディングタイプを壊したい、壊すことに快感を感じるって言ってた。
福留　久米くんは建築が作られた瞬間に興味があるんだなって思うけど、私は逆に何を発想するかっていう考えの始まりみたいなところに一番興味があるっていう、違うね、面白い。

現在Ｙ-ＧＳＡのスタジオ内で、何か批評精神をもって取り組んでいることはありますか？（藤井）

久米　質問の答えになってるかわからないけど、僕としては今回の卒業設計で結構「同世代」というか、都市のネガティブな部分の価値を反転させようという事をやるのは、同世代としてすごく共感する。例えば池谷の卒業設計も、渋谷の都市開発の中でぽっかり残ってしまった部分の価値を転換させて中庭にするというものだった。未来ちゃんのロードサイドのやつは、郊外の商業店舗が建築的な操作でアイデンティティを持ち始めるというのが、なんてことない街の流れを劇的に変える提案になっていて良かったね。
池谷　西沢さんめちゃくちゃ未来ちゃん評価してたけど、そこまで激評価するっていうのはまだ共感が得られない。どう思います？多分西沢さんとしては、モダニズムの権化みたいなものの価値を転換したのを評価していた。
久米　だから形に対しては文句言ってたかな。
福留　ＹＧＳＡに来て一番衝撃だったのは、「これはまだ建築になってないじゃないか」というものに対する評価が有り得るんだということ。すごい建築を作ってるような人も評価してくれるし、着眼した内容自体が新しいっていうのでも評価されるんだなと思った。大学によって評価されることは違うから、卒業設計の評価は一回どうでもいいと思ってもいいと思います。
久米　愛ちゃん何が好きだったの？
福留　そうですね。金子さんの、最初に建築に対する考え方を一回提示して、その後にこうスタディしてこう建築を考えていくんだっていう論理の組み立て方は賢いなと思った。そういう風に建築をつくるのってなかなか難しい。
池谷　俺もまゆちゃん面白いなって思った。前提をしっかり作った上で、提出物としては終わらなさをそのまま出すっていう感じが、引き算的じゃないっていうか――。
福留　最初さ、「建築とはこういうあるべき」って言ってたような気がするんだよね。その目標を言って、それに対して建築をつくるっていうことがすごい。

まずそれを言えば、多くの人がかなりのレベルまで評価されると思うんですが、それをやらないところで、他で勝てないというのがあるのかなと。（毛利）

福留　共通言語化をされてないっていう事ね。

瀬川のやつは、ここでなくてもできる点で強い提案。
都市計画というより建築の在り方に迫ってる。（毛利）

福留　ただ金子さんと未来ちゃんの場合はみんなと逆で、普遍性がありつつもここでしかできないことまで言えていたらもっと魅力的だったのかもしれないね。
池谷　「ローカル最適解」までいけなかったのかな。普遍性というのを推していたから、西沢さんとか高橋さんが評価した。
福留　でも雪乃ちゃんの雪の事とか、林くんの坂道の話題も、その地域に限らず有り得る話。毛利くんの小学校っていうプログラムもそうで、その地域の話に止まらない回答として提示できたら魅力的だよね。

JIA の提出が昨日あって、それは結局 A 3 シート 2 枚だったんです。（※コロナウィルスの影響で講評会が中止された）一平さんに見てもらって、それは結構言われましたね。説明の仕方が「この敷地だからこうなっちゃいました」という事ではない可能性を言わなきゃいけない。（毛利）

久米　高橋さんがよく言うのは「建築は真似できるものを作らなきゃいけない」。

敷地に提案が依存するけど、他にもいえるっていう事は大事なんでしょうか？
そこが、本質的にはまだ分かっていないです。（藤井）

福留　私もそのことを学部四年生の時に考えていました。自分の卒業設計のテーマを先生に持って行った時に、「これは汎用性がないからやめなさい」と言われたんだよね。ひとつ思うのは、自分が建築を作る時に建築の歴史というか、いままで見たものを学んで作っているわけで、扉とかガラスとか。自分が経験してきた建築の言語とか、今までの建築家が作ってきた建築の歴史の中に自分が位置付けられるものを作るって考えたら、その後も続いていく歴史の中で、未来の建築家が学べるような建築をつくるっていうのが普通なんじゃないかって感じがする。
池谷　一度グローバリズムとかインターナショナルとかが浸透しちゃったからだと思う。近代以前だったらその地域だけの固有解だけで良かったけど、一回全て同じようなものが広まっちゃったからこそ、その上に乗せるものが「ローカル」だけでは良くないっていうことな気がする。

汎用性がないとダメっていうのは、同じ環境にも適用できるかということではなくて、その建築における考え方が他にも汎用できるかってことですよね。（藤井）

福留　池谷君は？
池谷　両方に興味がある、両方気持ちいいじゃん（笑）僕は「緩やかな全体性」って言ってる。「おおらかな全体」と「超局所解」って。フィールドオフィスでやってた時もまず緩やかな全体というのがあって部分は超ローカルになって、という。作品としてはあくまで全体性を考えて作るけど、個別の建築は自由でいいという寛容さみたいな。
福留　その全体性って、何で作り得るんだろうね。建築の骨格、秩序みたいなこともあるし、全体のイメージが一つあったらとか・・・。
池谷　どこからどこまでで全体性が現れるのかは興味ある。どこまでが集落なのかっていうのも。
久米　それは原さんも言ってたよね、アメリカはどこからどこまで集落なのかわからない。
池谷　卒制の時もそうだったけど、集落を建築として作りたいし、建築を集落として作りたい。集落の寛容さ・・・。
久米　集落は寛容ではなくない？かなり形式があるような気も。

集落は形式はあるかもしれないけど、どっかで全部続いてる。

池谷　そう、セットがあるんだよね。そのセットをどう使うかは自由っていう。未来ちゃんの卒制とかもそうかもしれないけど、セットがあるじゃん。そのセットは場所ごとにどう形が変わってもいいみたいな。スロープ、屋根、ヘリポートとかあったじゃん。そのセットと個別解が全体を作るっていう。
福留　形式とそれを崩すような個別の要素がある。その地域特有の日差しとか風とかの要素を、どうやって受け入れながら住むかっていう住宅の形式はあって、だけど例えば山の近くにあるとか川の近くにあるとか、その一つ一つは少しずつ違っていく。けれど全体としては同じ形式として作られていて、一番合理的な、地域で暮らしていくための最大の回答みたいのがある。
池谷　そう、それが形式主義の更新の仕方としてあったら面白いと思う。一個の指針の中で３セット作るとか。
久米　でも集落を形式って捉えること自体がもうやられてきたことだから、もう一個先に行かなきゃいけない気がするんだよ。理顕さんとか原さんとかが大量にやってきたことを踏まえて、もっと先の集落の見方と建築への繋がりがあるようと思う。

でも議論はあったけど、建築で言えてるかっていう結果はまだないような気も。（藤井）

久米　それは建築で言えるかどうかってのもある。
池谷　住宅一個で言うのはすごく難しいね、公共建築では在り得るけど。
福留　現代建築において、集落を参照することの意義がもっとはっきり言えたらいいなって。集落の形式と個別の回答が作る全体性みたいなのが現代的にやっぱり必要だということがもう少しはっきりと見えて・・・。現代のAmazonで何でも届くとかＳＮＳで誰とでも繋がっている時代っていうのを踏まえた上で、どういう建築が必要かということまで繋がったら面白いよね。

伊波くんのは集落的だったなって。バス停を作るという流行っていうか。集落もつまり形式という守らなきゃいけないルールがあるのではなくて、「なんか周りのみんなもやってるから僕もやろうかな」っていう事で、そこに好みが出るから面白い。雪乃の風景っていうのは何か聞きたいところ。風景っていうのは建築的に使うということ？どういうものを風景と呼んでいるのか。（毛利）

久米　なんか締めの言葉とか言わなくていいんすか、卒業生に向けて一言みたいな。
池谷　あ、俺話すことあるんだ。超戻るけど、なんか今年先輩手伝いすぎたよね（笑）

・・・・・・・。

池谷　ＹＧ生すごいいたなと思って、でそれの何がいけないのかって言うと、3年生にとって卒制ってプレ卒制みたいなところあるじゃん、しょうもない先輩をどうにか助けて行くみたいな。そうすると、来年が心配っていう。うちの班の高橋とも話してたんだけど、「なんかすごい安心感ありました」って言ってて。
福留　そんなかな？先輩いたことでそんな安心感あるっけ？笑
久米　あのね、こいつがやばすぎただけだから。

・・・・（笑）

（笑笑）

久米　まあさっきも言ったけど、クールでスマートでクレバーなんですよ、今年の卒業生の皆さんは。なんだけどクレバーすぎてもっと焦れよっていうのはある（笑）もっとテンパって欲しかった。ばやし（林）とくる実ちゃんの２人だけ卒業設計っぽかった、面白かった。

宮本に、「林さん何もしてないっすよ。」って言われた（笑）（林）

福留　止まってたもんね（笑）
久米　まあ卒業設計なんて、これからチクチク藤原さんに言われるんだよ。「君が卒業設計で言ってたこととは違う」とか（笑）
池谷　「いやぁまだ卒業設計超えてないね」とか（笑）
福留　３人の卒業設計よかったよね、これからいろいろ頑張れそうな感じがする。

風景って、一人一人が考えている想像だと思うし且つ時間軸があると思う。だから風景が断片的なものじゃないっていう認識はすごくある。色々考えることがあるけど、卒業設計で考えたことは季節によって様相が変化したりそこで自分の生活パターンが変化したり、それが全部風景だなって思うから、それを考えて建築作るっていいんじゃないかなって思った。（藤井）

久米　なんとなく聞いて思ったのは、風景じゃなくて風土、風土を感じる建築、風土である建築、その場所がその場所たる所以がわかる建築。

そうですね、風土。だから敷地って重要なのかなと思っていて。（藤井）

福留　その皆が思い描く風景っていうのはそれぞれ違うんだけど、やっぱりこの場所を示しているっていうような建築をやりたい。
久米　都市みたいな建築っていうのにも繋がるのかな。俺が野毛って考えた時のイメージは、競馬で勝ったおっちゃんが小銭チャラチャラ持ちながら今日は飲むぞーって言って横断歩道歩いてる、それが野毛って思ってる（笑）
池谷　そういうのだと、歩道とか設計したい。フィールドオフィスってそういうのもいいんだよ。何でそんなコンペが発生するのかよくわからないけど、普通の学校の脇道がただこうあって、その淵を設計するっていうだけのコンペがある。北山さんも言ってたけど、フィールドオフィスの面白さは、建築家が関わってこなかった事を建築的にしていったということ。フィールドオフィスのプロジェクトが増えていくかわからないけど、日本でもやれたらそういう歩道とかも・・・どうしたらそういう設計ができるかな。
久米　まずは法をどうするかっていう。法と行政との関わりとどうするのか。それをどうするかって言ったら日本人の空間リテラシーをあげるって事に繋がる。それをどうするかって言ったら良い建築を作るって言う（笑）
池谷　シンプルに建築の境界線をいじれるっていうのは、ラディカルだよね。
久米　敷地境界っていう考え方自体が日本に合ってないんじゃないかなって思う、アジアに合ってない、ヨーロッパ的だから。
池谷　壁があるっていうのが元々境界的だったから、それが敷地境界ということになってしまったんだけど。象の用賀プロムナードとかすごい好きなんだよね。世田谷美術館から用賀駅の間にあって、ああいうのいいな、人生の中でやりたい建築といえばああいうのやりたい。
久米　人生の中でやりたい・・・俺広場やりたいかな。

私は美術館設計したいです。（藤井）

福留　わかります。
久米　あとは劇場とか？花形だもんね。
福留　図書館やりたいな、知の集積だもん。
久米　図書館やりたい、えーもう全部やりたいんじゃん。あ、でも俺マーケットだわ。
福留　マーケットの設計で面白い作品ある？

ＭＶ？バルセロナの。（毛利）

福留　あれは微妙だと思う。
久米　マーケットはね、アノニマスな方が面白いよ。
福留　そうなの、だから設計するって難しいと思うんだよね。
池谷　台湾のマーケットって町そのままで、街区型が少ない。
久米　でも、やってみたい。だからあれだ、エンカンツォの蚤の市みたいな、アルミの銀のがバーっとあって螺旋がガーッとなって。あれ何なんだろうね――。

以後、骨董品の話で盛り上がりました。